

更なるサービスを目指して

太田 新子

平成の合併で5町2村がひとつとなり、県下で佐伯市に次ぐ広い面積を持つ、豊後大野市が誕生しました。私たちの市には豊後大野市中央図書館（旧三重町立図書館）、豊後大野市緒方図書館（旧緒方町立図書館）の2館があります。各館とも地域の生涯学習の拠点として、また、情報センターとして多くの市民に愛され、利用されています。

しかし、2館が異なる図書館システム、書誌データを利用していたため、各館、別々の利用券が必要であり、また、Web上での蔵書検索等もできない状況でした。合併後、「1枚の利用券で借りられるようにしてほしい」「インターネットで検索ができるようにして」と、利用者の方からたくさん声をいただいていた。

2009年2月1日、いつもと違う緊張と不安の朝をむかえました。いよいよ、私たち職員、そして、市民のみなさんが待ち望んでいた、中央図書館と緒方図書館の統合システムが稼動を始めるのです。何とも落ち着かず普段より早く出勤した私は、「どうか、すべて順調に行きますように！」と心の中でつぶやきながら、利用者登録や貸出がスムーズに行えるように、何度も図書館システムや作業手順の確認を行いました。

約1年前、念願のシステムの導入が決定した時、統合をずっと望んできた私たちでしたが、いざ現実味をおびてくると、喜びと同時に、何から始めればよいのかという焦りを感じていました。異なる電算システム、異なる書誌データ、本当に上手く稼動するようになるのかという不安とたたかいながら、2名の職員での新システムの仕様書づくり、入札、契約、新利用者カードのデザインの検討・作成、新バーコードの作成、各館別々の書誌データの統合作業、書誌データ未入力図書の整備と膨大な仕事を行ってきました。まさに不眠不休の作業を半年近く行い、2月1日を迎えたのです。

システム統合によって、利用券が共通となり、Web上で蔵書検索が可能となり、以前より質の高いサービスを提供できるようになりました。しかし、私たちの目指す公平・平等なサービスは、今、スタートしたばかりです。行く先には、まだまだ、いくつもの高いハードルが待ち構えています。

この2月1日は、これからも、市民のみなさんの視点に立ち、市全体にいきとどいた公平なサービスが行えるように新たな努力をしよう、職員全員の心がひとつになった日でした。

(おおた・しんこ 豊後大野市中央図書館)